

## ティーチング・ポートフォリオ



東京都市大学人間科学部

泉 秀生

作成日 2022年8月30日

## 【責任】

私は、保育士や幼稚園教諭を志している学生に対し、児童福祉関係科目である「子ども家庭支援論」（1年必修）、「子ども家庭福祉論」（2年必修）、「社会的養護」（2年必修）を担当しています。また、保育士資格取得のために必須となる実践的な科目（「保育所実習（1）施設」および「保育所実習指導（1）」（3年必修）、「保育所実習（3）施設」及び「保育所実習指導（3）施設」（4年選択必修）も受け持っています。

さらに、論理的思考力を養う「基礎ゼミナール」（1年必修）、「特別研究ゼミナール」（3年必修）、「卒業研究ゼミナール」（4年必修）を担当しており、各学生が興味・関心を抱く内容を一緒に探し、研究に取り組んでいます。

学務分掌では、教務委員会、情報基盤センター、実習委員会、びっぴ運営委員会に所属しています。

## 【理念】

私の理念は、以下の3点です。

### 1. 学生が卒業後にあるべき保育者像・大人になってほしい。（方針A）

本学部の学生は、講義や実習、大学生活などを通して、保育者・教育者としてあるべき姿や、子どもに対してふさわしい接し方、大人としてすべきこと等について学んできた。とくに、保育所保育指針や幼稚園教育要領をベースとした考え方を大切にしていただき、それぞれの得意なことや性格などを加味して、保育者像・大人像を確立してもらっている。さらに、近年の日本の子育てを取り巻く諸問題や、保護者による望ましくない子育て等についても学んでいることから、それらを把握した上で、あるべき保育者像・大人になってほしいと考えている。

### 2. 学ぶ姿勢を常に忘れずに、自身のためにも子どものためにも学び続けてほしい。（方針B）

卒業後に、保育士や幼稚園教諭になったとしても、そうではない道に進んだとしても、学び続ける姿勢をもち、その姿勢を大切にしてほしいと考えている。保育・教育に携わる場合は、目の前の子どもやその保護者の成長や発育・発達に寄与する知見を、日々学ぶことで、その得た知識を利活用し、目の前の困っている人々にすぐに適用できる。つまり、学生自身が大学在学中に学べば学ぶほど、その学生に接する子どもや大人も幸せになる可能性のあることを忘れず、邁進してほしい。とくに、その土台となる学び続ける姿勢を大学生活で培ってほしい。

### 3. 講義を通して楽しみながら学ぶことを体験し、生涯かけて学ぶ楽しさを味わってほしい。（方針C）

学ぶことは人のためにもなり、ひいては、自分のためになる。それだけ素敵なことではあ

るが、一方で、人によっては退屈になりがちである。一人でコツコツ学ぶことを好きで得意としている方や、仲間とわいわい話しながら学ぶことが好きな方もいる。そのためにも、自身に合った、楽しみながら学ぶ術を、講義を通して知ってもらい、生涯にかけて学ぶ楽しさを味わってほしい。その過程で人とは何かを考えつつ、自分の性格や特性などについても把握し、より良い将来、未来を見すえて行動できるようになるものと考えている。

### 【方針】

上記の理念を実現するために、以下の内容を実践している。

#### 方針 A「卒業後にあるべき保育者像・大人像を見つけ、目指す」

大学入学前後においては、「子どもが好きだから」保育士・幼稚園教諭になりたいと言う考えが一般的である。しかしながら、大学での講義や実習などを通して、ただ好きだから、ではなく、子どもに対してどのような接し方や考え方をもつことが重要なかがわかってくる。ただ育てるだけではなく、培った専門性を軸に、各学生が体験してきたことや大切にしていること、理想などを考えながら保育者像・大人像を形成していく。大学の教職員や先輩・後輩との出会いや、講義の内容、実習先の先生など、接してきた人や学んできた内容をもとにして、それらは形成されてくるであろう。色々な人と接する中で、それらの価値観を形成して行ってほしい。

#### 方針 B「学ぶ姿勢を常に忘れずに、自身のためにも子どものためにも学び続ける」

講義の中では、一見、保育や子育てに関係ないようなことも取り上げる。それは、色々な視点を持つことが大切であり、偏った視点をもたないための工夫である。保育や子育てには不正解はあるが、どの子どもにも適応される正解は無く、子どもの性格や発育・発達によって臨機応変に対応を変えることができるように、多様な考え方が必要になる。そのため、子どもや保護者に対応する術となる知識や技術をたくさんもつことで、子どもや保護者、同僚などと接する上で役立つことが必ずある。講義を通して、色々な考え方や価値観に触れて、広い視野や考え方を身につけてほしい。

#### 方針 C「楽しみながら学ぶことを体験し、生涯かけて学ぶ楽しさを味わう」

世の中には答えのないものや、立場や環境が変われば答えも変わってくるものがある。物事を多角的にみて考えることで、新たな考え方を得ることが可能となる。とくに、福祉的な側面のある保育については、一方向からの視点だけでは、対象となる子どもや保護者を傷つけることになる可能性がある。そのためにも、楽しみながら学ばせていただくといった姿勢が必要となり、そうすることで子どもや保護者に対して、高圧的な態度ではなく寄り添う姿勢になると考えている。講義の中では、学生自身のもつ考えを webclass 上のチャット機能を使用して、匿名で聞くこととしている。これは全員が見ることができるため、他の学生の意見も知ることができ、考え方や価値観を広げる材料となっている。

### 【評価・成果】

<方針 A>学生の普段の考え方が変化したことや、今までの考えが浅かった等、学生自身が変化したことを自覚する内容がアンケートからみてとれた

<方針 B>授業評価アンケートの結果から、学生が前向きに楽しみながら学んでいることがわかった

<方針 C>反転教育を取り入れた結果、学生自身が考えることの大切さを確認したとともに、他の人の意見を知ることの楽しさ、意見交換することの大切さに気付いたことがわかった。この取り組みは、2021年度ICT推進に関する優秀賞をいただいた。

### 【目標】

・学ぶことに興味・関心のない、もしくは、その力のない学生に対するアプローチを丁寧にこまめに継続することで、学生の負担を軽減しながら学習効果を上げていきたい。

・学生相互の学び合いによる学習の相乗効果を最大限にできるような、グループ発表や相互のかかわりの機会をもち、学びを重ねていきたい。

・オンラインと対面それぞれのメリットを活かし、教育・保育現場との繋がりを考えながら、理論と実践のバランスについて学生と共に学んでいきたい。

### 【文献】

- ・ 保育所保育指針
- ・ 幼稚園教育要領
- ・ 子ども家庭支援論 シラバス
- ・ 子ども家庭福祉論 シラバス
- ・ 社会的養護 シラバス
- ・ 特別研究ゼミナール シラバス
- ・ 卒業研究ゼミナール シラバス
- ・ 授業評価アンケート